

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
50	川崎市立王禅寺中央中学校	山本 浩之

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>知・徳・体の調和のとれた人間の形成をめざす</p> <p>○自主的に学び、真理の追究をめざす人</p> <p>○豊かな心を持ち、望ましい人間関係を築くことができる人</p> <p>○明朗で健康な生活を営むことのできる人</p>	<p>○深く学ぶ力を伸ばす学習指導(授業改善、GIGAスクール推進、自学自習に向かう態度)</p> <p>○一人一人に目を向けた支援の充実(学習支援、教育相談の充実、キャリア在り方生き方教育)</p> <p>○生徒が自分の存在価値を確かに感じられる集団形成(自己肯定感促進、いじめのない集団形成、生徒支援)</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学習への関心、主体的学習態度の育成	①興味関心を育てるわかりやすい授業の工夫を全教科でおこなう。②教育的視点に立っておこなう「伸ばす」ための評価をする。③生徒一人一人に応じたきめ細やかな支援や学習相談の充実を図る。	「授業はわかりやすかった」とする生徒は88.0%、「前向きに学習に取り組んだ」とする生徒は84.6%だった。学年が上がるにつれて数値が高くなっていることに手ごたえを感じる。逆に1年生が低調で、学習が軌道に乗っていない生徒が一定数いることは課題である。	T.Tなどを最大に活用し、授業中の学習支援をする。また、十分な教材研究に努め、生徒の理解しやすい授業計画をした上で、こまめな評価機会を設けて、指導と評価の一体化を図る。可能な限り、放課後学習相談の時間なども確保する。
2 個に応じた適切な支援教育・教育相談	①どの生徒にとっても生活しやすい環境づくり(適応できない生徒のいない環境づくり)をする。②違いを認め、違いに応じた指導と公平性を醸成する。③一人一人の生き生きとした生活につながる教育相談を実践する。	「友達や先生は相談に乗ってくれる」と思う生徒の割合が85.3%、「個性が認められている」と思う生徒の割合は79.0%だった。1年生で後者の数値が低く、同じ小学校から入学する仲間の少ない生徒の「少数派」意識が消えない現状がある可能性がある。	生徒一人一人に目を向け、生徒理解を確実かつ共通のものにする。また、生徒会活動や学級の係活動などを通じて役割感から自己有用感につながる経験をより多く取り入れる。昨年度に回数を増やした教育相談の機会を維持する。
3 信頼関係に基づいた集団づくり	①大きな力を生み出す機能的集団づくりを進める。②互いを尊重し、互いの力を生かす人間関係づくりを促進する。③いじめ抑止に向けた高い意識と敏感な感性の育成を図る。	「みんなで協力して学校行事をおこなった」と思う生徒の割合は92.84%、「いじめや仲間はずれになる心配はない」と思う生徒の割合は64.6%だった。後者は2年生の数値が大きく低下しているので、今後の動向に目を凝らしていく必要がある。	学校行事、学年行事などの集団活動を通じて生徒間の他者理解、他者尊重を促す。また、人権意識高揚を促す啓発活動を取り入れる。いじめは、細心の注意をもって発見できるようにチェックや相談機会の設定をし、学校全体に予防機能が働くようにする。
4 健康で安全性の高い環境の創出	①健康的で安全な学習活動の場になるための定期点検を確実におこなう。②命を守る防災体制の定期的確認と緊急時を想定した安全指導を実践する。③健康給食を糧にした食への関心、意識の高揚を図る。	「学校の施設・設備は安全だ」と思う生徒の割合は88.0%、「生徒・先生は健康・安全に注意している」と思う生徒の割合は87.65%だった。体育館工事に伴って、不便や心配をかけた一年だったが事故なく過ごせた。	教職員による定期的、日常的点検や修繕はもとより、来年度から導入される包括管理者とも連携し、施設・設備の完全性を高める。また、教員の聞き取り等による健康チェックのほか、生徒自身のセルフチェック機能を高める。引き続き感染症予防に努める。
5 キャリア在り方生き方教育・進路指導の充実	①社会貢献や生きがいにつながる計画的なキャリア在り方生き方教育を実践する。②適性や将来像の発見、確立につながる計画的な進路指導を進める。③一人一人の希望や目標に応じた丁寧な進路相談をおこなう。	「学活や道徳、総合的な学習の時間が有効だった」とする生徒の割合が87.7%、「人権に関する学習が有効だった」とする生徒が86.6%といずれも上昇した。3年生の進路相談は公立中学校の進路指導について十分な理解が得られていない部分があった。	社会の変化を視野に入れた指導を継続する。また、生徒の実態に合った計画的な指導となるよう工夫する。3年生に対しては、一人一人の希望、適性に沿った情報提供と相談を定着させる。進路指導の在り方について保護者の理解を得られるよう工夫する。
6 GIGA端末の有効かつ適正な活用	①各教科の特性や指導内容に合わせたGIGA端末の使用場面を積極的に創出する。②GIGA端末の有効性を実感する課題や目標を工夫して設定する。③GIGA端末に伴う情報管理や情報モラル浸透を図る。	「GIGA端末は授業や家庭学習に役立った」と思う生徒の割合は84.6%だった。生徒の活用能力はさらに前進したが、閲覧制限に対する不満の声が生徒、保護者からあった。	どのような場面、どのような内容でGIGA端末が有効であるかということについて引き続き研鑽する。閲覧制限については、総合教育センターとの連携を図り、適切で効果的な運用をする。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>○「少数派」になってしまう1年生が自信を失わないよう、出身小別の人数が大きく異なる事情に配慮した教育活動を続けてほしい。入学直後の自然教室が関係づくりに役立ったという2年生の話は参考になるのではないかと。○個と集団、どちらが大事とはいえないが、そのバランスをとるのに学校が苦労していることが窺える。同様に、生徒の自主判断に任せる場面と教員が導く場面の使い分けも簡単ではないと思うが、うまくバランスをとってほしい。○「授業がわかる」という生徒が、1年→2年→3年と次第に数を増やしているのは学校の努力の結果。適切な学習指導のされていることの表れだと思う。○生徒が率直な意見を自由記述に書いているので、大事にしてほしい。中にはすぐに実現できるものがあるので、迅速な対応を望む。要望が実現され、先生と生徒の関係性がよくなるのならこの上ない。場合によっては保護者に協力を求めてもいいと思う。</p>	<p>○3学級で感染症による学級閉鎖があったが、大きな支障なく教育課程を履行できた。○わかりやすく、興味、関心を引き出す授業を全教科でめざし、一定の成果が得られた反面、指導に生かす評価が不完全なことが把握された。○いじめの予防と早期発見に努めた。暴力行為、心理的圧力、悪意のある疎外などのいじめはなかったが、これらに対する生徒の不安は容易に消えない現実があり、一層の努力、工夫の必要を感じた。○GIGA端末の活用を取り入れた教育相談のニーズ把握が一定の成果を得られ、教育相談体制全体の整備は進んだ。教員の教育相談力を一層向上させる必要を感じた。○多くの目で安全性の向上に向けた点検活動をこない、大きな事故のない1年であった。一方、生徒のけがへの適切な対応を欠いた事例があったことは反省点である。○「キャリア在り方生き方教育」は系統立てた指導へと発展させられた。進路指導については生徒、保護者への説明に不十分な点があった。○GIGA端末を使った教材の共有化により授業での有効活用が進んだ。○学校のルールの改変などで生徒の意見を反映させられたことは大きな前進であった。</p>